



図版1. 安西水丸《パイナップル》1987年

会期：  
2020年9月21日(月・祝)  
— 10月24日(土)

会場：  
武蔵野美術大学美術館  
展示室4・5

・18世紀フランスの哲学者デイドロやダランベールらによる『百科全書』、19世紀後半フランスで隆盛したリーブルダルティスト(画家による挿絵本)、宇野亜喜良や横尾忠則によるポスター、安西水丸のシルクスクリーンによる作品など、当館コレクションのなかからイラストレーションをめぐる作品を紹介。

・西洋と日本、幅広い時代の作品から、私たちにとって身近な「イラストレーション」の豊かな可能性を探る。

休館日：日曜日

開館時間：10:00–18:00(土曜祝日は17:00 閉館)

入館料：無料

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館

監修：赤塚祐二(武蔵野美術大学 油絵学科教授／武蔵野美術大学 美術館・図書館 館長)

[同時期開催展覧会]

「脇谷徹—素描ということ」

2020年9月21日(月・祝)- 10月24日(土)

## 本展の趣旨



図版2. [世界地図] 16世紀ごろ



図版3. 『トリノ＝ミラノ時祷書』(15世紀) ファクシミリ版、1997年



図版4. 『ヴェル・サクルム』(アルフレッド・ローラー表紙絵) 1898年1月



図版5. ジャン・コクトー『オルフェ』1944年

イラストレーションと聞き、何を想像しますか。安西水丸の作り出すポップで爽やかな世界、宇野亜喜良の描く繊細で甘美な情景——みなさんの頭のなかには、様々なイメージが浮かぶのではないのでしょうか。

西洋における〈illustration〉は、印刷技術の発展とともに書物や雑誌と深く結びつき、社会や文化を映し出しながら歴史を重ねてきました。日本では1960年代以降、イラストレーターの活躍をきっかけとして独自の発展を遂げ、今日的な〈イラストレーション〉の概念が一般に定着したといえます。美術評論家の中原佑介が、この広大なイラストレーションという領域を考える上で、なによりもまず「世界地図」を「世界のイラストレーション」と例に挙げたことは、少し意外なことに感じるかもしれません。

本展では当館コレクションより、中世の彩飾写本や16世紀の世界地図、現代のポスターまで、イラストレーションをめぐる幅広い作品を展覧します。現代の〈イラストレーション〉の源泉ともいえる〈illustration〉の実体、日本の多彩な〈イラストレーション〉を生んだイラストレーターが存在を探りながら、その可能性を紐解きます。

## 1章 イラストレーションを考える

紀元前3世紀頃に創設されたアレクサンドリア図書館には、「挿絵入り書物(illustrated book)」が存在していました(注1)。この史実は、イラストレーションの歴史がはるか古来より紡がれつづけてきたことを教えてくれます。

中世以降、西洋における〈illustration〉は、印刷技術の発達や出版文化の隆盛と不可分でした。図鑑のなかの細密な解剖図は有効な情報伝達手段として、小説に添えられた挿絵は読者のイマジネーションを喚起するものとして、書物を彩ってきました。折々の絵画様式と時に呼応し、生活や社会の流行に密接につながった多彩な表現は、時代の精神や思想を映し出す鏡ともいえるでしょう。

その歴史の先に日本に受容された〈illustration〉という言葉は、1900年代にはすでに「図解」や「挿絵」と訳出されていました(注2)。その後1960年代以降には、〈イラストレーション〉というカタカナ語として一般化してゆきます。〈illustration〉の受容から〈イラストレーション〉定着への変遷のなかで、日本におけるイラストレーションは一言では言い尽くしがたい、豊かで複雑なイメージを孕んでいったのかもしれない。

美術評論家の中原佑介は「世界地図は架空の1点から光をあてられた全世界のすがたである。それは明るみにだされた世界、つまり、世界のイラストレーションなのである」(注3、傍点筆者)と記し、世界地図からイラストレーションを考察しています。1章では、イラストレーションの語源として挙げられる「明るみにだす」という言葉を手がかりに、世界地図や百科全書、挿絵本など、15世紀から20世紀初頭までの書物を中心にその機能と表現に触れ、〈illustration〉の実体を探ります。そこから、わたしたちの親しむ〈イラストレーション〉の源泉が見えてくるかもしれません。

注1：鶴岡真弓『ケルト／装飾的思考』筑摩書房、1989年

注2：神田乃武等編『新訳英和辞典』三省堂、1902年 など

注3：中原佑介「イラストレーションと文化の顔」『見ることの神話』フィルムアート社、1972年

## 2章 イラストレーターを考える

イラストレーションという言葉と同様に、イラストレーターという存在も私たちにとって馴染み深いものです。今日的な〈イラストレーション〉の概念はイラストレーターという「新種の職業」の登場によって初めて認識された(注4)と語られるように、その存在が広く知られるようになったのは、そう遠くない昔のことといえます。2章では、日本におけるイラストレーターの誕生と広範な領野へと展開する表現の軌跡を概観します。美術(ファインアート)に対する自身の立ち位置を問うた戦前の図案家、商業美術家団体による先駆的な活動、戦後復興期、急成長する社会との関係を築き上げた日本宣伝美術会(日宣美)によるグラフィックデザインの興盛はイラストレーター誕生の土壌を耕しました。その後1964年に発足する和田誠、宇野亜喜良、横尾忠則ら「東京イラストレーターズ・クラブ」の際立った活動の数々、黄金期といえる70年代以降に立ち起こる「スーパーリアル」「ヘタうま」といった多様なスタイルは、挿絵や図案、モダンデザインとは一括りにできない、今日的な〈イラストレーション〉の開花を物語ります。

社会変動の大渦の中、「アルティザン(職人)」「アーティスト(作家)」の二つの顔を持ち合わせる存在として、自身の立ち位置を模索し続けてきたイラストレーターたち。展示では、各時代の描き手による証言や当時の批評といった言説からその意識の変遷を辿るとともに、ポスターや雑誌、機関誌やレコードまで、多彩なメディアを通して、彼らが切り拓いた〈イラストレーション〉の可能性をご覧ください。

注4: 榎本了春「特別な50年 デザイン イラストレーションアート」『日本のイラストレーション50年 (ggg Books 別冊-1)』ギンザ・グラフィック・ギャラリー、1996年



図版6. 多田北島 [キリンスタウト] 1936年



図版7. 早川良雄 [JAPAN AIR LINES] 1958年



図版8. 宇野亜喜良 [初恋: 地獄篇] 1968年



図版9. 湯村輝彦 [フラミンゴ・スタジオ] 1976年

お問い合わせ先:

武蔵野美術大学 美術館・図書館  
東京都小平市小川町 1-736  
tel: 042-342-6003 fax: 042-342-6451  
<https://mauml.musabi.ac.jp>  
美術館広報担当(森、内田)  
mail: [prmsm@musabi.ac.jp](mailto:prmsm@musabi.ac.jp)  
展覧会担当(鳥越、大野)  
mail: [torigoe\\_m@musabi.ac.jp](mailto:torigoe_m@musabi.ac.jp)  
[to\\_ono@musabi.ac.jp](mailto:to_ono@musabi.ac.jp)

プレス用図版をご希望の方へ:

- ・ご希望の図版番号と下記の必要事項を、[prmsm@musabi.ac.jp](mailto:prmsm@musabi.ac.jp) までお知らせください。  
(お名前、ご所属、電話番号、Eメール、媒体名、掲載号、発行予定日、コーナータイトル)
- ・掲載図版が1点のみの場合は図版1.《パイパイ》をお送りします。
- ・2点以上の場合は、図版1. +ご希望の図版をお送りします。
- ・指定のクレジット+所蔵先(武蔵野美術大学 美術館・図書館)を必ず明記してください。
- ・原則的には図版のトリミング、部分使用、文字載せはご遠慮ください。
- ・掲載内容確認のため、発行前にPDF等でレイアウトをお送りください。
- ・紙媒体は掲載見本のご寄贈(掲載ページのPDF可)、ウェブ媒体は掲載ページのURL お知らせをお願いします。